

第11回宇宙輸送システム部会 議事要旨

1. 日時：平成25年12月20日（金） 9：00－10：20
2. 場所：内閣府宇宙戦略室5階会議室
3. 出席者
 - (1) 委員
山川部会長、白坂部会長代理、緒川委員、木内委員、松尾委員、御生委員、薬師寺委員
 - (2) 事務局
明野宇宙戦略室審議官、頓宮宇宙戦略室参事官、森宇宙戦略室参事官

4. 議事要旨

(1) 宇宙輸送システム長期ビジョン素案の検討状況について

白坂部会長代理から資料1に基づいて説明があった。主な内容は以下のとおり。

- 宇宙基本計画に基づき、2040年から2050年頃の宇宙輸送システムに関し、我が国が取り組む方向性について総合的に検討し、宇宙輸送システム長期ビジョン素案として取りまとめるべくワーキンググループにて審議を行ってきたところ、これまでの検討状況の報告である。
- ワーキンググループにおける長期ビジョン素案の検討では、宇宙利用の飛躍的拡大のためには、再使用型宇宙輸送による低軌道領域の宇宙輸送コストの二桁低減を目指すべきとした。
- また、低軌道領域の再使用型宇宙輸送機の開発はロケット型、エアブリージング型、ロケットとエアブリージングの組合せ型という3つのシナリオを想定したマルチパスのアプローチをとり、2010年代に小型実験機の開発に向けた検討を開始すべきとした。
- 低軌道領域の再使用型宇宙輸送システムの技術課題や高軌道領域の宇宙利用及び将来宇宙輸送システムについては引き続き検討を行う予定。

説明を受けて、以下のような意見があった。

- 将来宇宙輸送システムを我が国が開発する理由について議論を深めないと、これまでのように検討しただけという状態にいずれ戻ってしまうという懸念があるため、しっかりと議論すべき。
- 将来の宇宙輸送システムを検討する上で、我が国として有人をどうするのかという議論を深めるべき。
- 国として有人をどうするのかという議論はあるが、一方で民間としては宇宙輸送機には人が乗って当たり前という認識を持っている。

- 将来の宇宙利用の姿についての検討をさらに深めるべき。
- 宇宙利用からの視点も重要だが、我が国として再使用型宇宙輸送システムやその推進系を研究開発するということが最も重要なことではないか。
- 我が国が宇宙輸送システムの技術を保有するのは、そもそも自在性、自律性を確保するためである。将来の宇宙輸送システムも同様。
- 来年度から新たな基幹ロケットの開発に着手されるが、そのような現在の活動と将来宇宙輸送システムがどのようにつながっていくのかを示すべき。
- 近い将来に実験機や実証機の開発へ挑戦していくことは賛成。
- 我が国の技術的な強みであるシステムの高信頼性を追求すべき。宇宙輸送システムについては信頼性が高ければ価格が多少高くても強みになるはずである。
- 先端的な研究開発で生まれる技術の波及効果や意義についても議論を深めるべき。
- 将来的に国際共同開発なったことを想定し国際優位性の確保は重要な視点である。

以 上